

フトキハツノ裁判ニ関係アル人又ハ裁判所
へ呼ヒ出サレタル人ナリ

前條ニアル所ハ外人ハ故障ヲ為ス_トヲ得ル
ト虽モ_レケ_トトモヒルヲ為ス_トヲ得ス

之レ第一項ノ大意ニミテ通常ノ道ニテ取リ
直ス_トヲ得_ル場合ニ於テ非常ノ道ヲ以テ

裁判ヲ言渡サレタル裁判所へ願フ_トナリ
此ノ如ク非常ノ道ナルユヘ非常ノ道ヲ以テ補フニ

ハ必ラス其ヶ條ノ限リナカルヘカラス此条中ニ
十ヶ條アリ後條ニ一ヶ條アリ合セテ十一ヶ條ナリトス

第一 本文人ノ詐偽アル_トト昏イテアリテ
如何ナル人ト云フ_トハ書イテナシ

甚タ簡畧ニ過キタリ

元來詐偽ト云ヘハ人ノ字ヲ記セストモ可ナ
リ何トナレハ詐偽ハ人ニアラサレハ無ケレ
ハナリ

相手方ノ内數人ナリトモ一人ナリトモ區別
スルニ及ハス_トハ商人ニ詐偽アルトキナリ

此所口ニテ書クニハ双方ノ内一方ニ詐偽アル
ルトキハ為スヘレ裁判官_ノトハ別ニ条アリ

ソノ詐偽アル場合ニニツアリ或ハ初告ノ裁
判ノトキアル_トモアリ又ハ終審又ハ控訴ノ

トキ又ハ故障ヲ述フルトキ尤モ裁判ノトキ
詐偽ノアル_トヲ知ラス元來ノ契

約ニ詐偽アル_トヲ知ラスレテ裁判ヲ言渡サ
レタルトキモアリ

之レ等ノトキハ惣テ此式ヲ用ヒテ取消ヲ願フナリ

前ノ裁判ニ於テ詐偽アルカ又ハ契約ニ於テ詐偽アルカワノ裁判ハ済ミタルトキハ之レヲ補フヘシト申出如シレケトシヒルニ於テ詐偽アルトキ之レヲ如何スヘキヤ其時ニ別ニ方法ナカルヘシ

上告ハ法律ノ違ヒタルトキニテ事柄ニ付テハ上告ヲ為スヲ得ス第五百三条ヲ見ルハ之レハ一度ヒレケトシヒルヲ為シタル上ハ再ヒレケトシヒルヲ為スヲ得サルハ説イテアルナリ

右ノ通りニテソノ裁判ノ取り直シヲ為スヲ得サルナリ

併シ果シテ詐偽ナルトキハ更ニ初告裁判所ヘ新タニ其詐偽ヲ訴フルヲ得ルナリ之レハソノ詐偽ノ償ヲ求ムルナリ

タトハハレケトシヒルニ於テ相手方ニテ証據ヲ隠シタルニ付テ負ケ訴訟トナリタルトキ

又休暇ノ前ニ一方ノ人ニテ呼出シヲ掛ケテ以テ訴訟ハ休暇ノ後ニ為スヘシト自カラ又ハ使吏ヨリ通シタリ仍テ他ノ一方ノモノハ旅行ヲ為シタリ然ルニ休暇前ニ訴訟ヲ為シタルユヘ欠席裁判トナツテ負ケタリ又ハレケトシヒルニ於テ原告人ニテ詐偽

ノ証書ヲ出シタリ然ルニ被告人ニテソノ詐
偽ヲ見出スヲ得サルニ依テ負ケタリ
前ノ裁判ノトキニ詐偽アルトキハ「レケート
ニヒル」ニテ取直スト由「レケート」ニヒル
トキニ詐偽アルトキハ之レハ取直スヲ得
サルユヘ更ニ新ニ償ヲ求ムルノ訴訟ヲ為サ
ルヘカラス

問

「レケート」ニヒルヨリ起リタル詐偽ノ償ヲ
新タニ初告裁判所ヘ訴ヘタルモノハ控訴裁
判所ニテ止マルヘキヤ

答

然リソノ裁判ヲ控訴シタル上ニテ詐偽ナ
キヲ以テ控訴裁判所ニ止マリテ「レケート」ニ
ヒルニ出ルヲ得ス

又ソノ初告裁判所ニテ詐偽アリ又ハ控訴裁
判所ニテ詐偽アルトキハ「レケート」ニヒルニ
出ルナリ

元來詐偽ノ契約ナレハ初告裁判所ニテモ控
訴裁判所ニテモ願ハレサルトキハ「レケート」
ニヒルマテ出ルヲ得ルナリ

元來詐偽ノ「レケート」主タル訴訟トナシタルトキ
ハ控訴ヲ止マルナリ

二ヶ月ヲ限ルトハ何時ニテモソノ詐偽ヲ見
出シタルヨリ二ヶ月ニシテ裁判ヲ受ケタル
ヨリ二ヶ月ニハアテサルナリ

第二 法律ニ定メタル所ノ式ニ循ハサル
モノハ「レケート」効ナレト云フ「レケート」ハ既ニ説キタリ

タトハハ呼出状ノ書法ソノ式ノ如クナラサ
ルトキハ初メニ云フヘキナリ然ルヲ言ハサ
ルトキハソノ推ヲ失ヒテ後ニ之レヲ言フ
ヲ得ス

然ルニ之レヲ始メニ言ヒタリトモ裁判官ニ
テ之レヲ取り揚ケスレテ裁判トナリタルト
キハ「レケート」トシヒルノ式ヲ以テ云フヘキナ
タト黙シテ言ハサリシトキト虽モ裁判ヲ
廢棄スル推ヲ失ハサル「一ツ」アリ管轄ノ違
ヒタル裁判所ニテ氣カ付カスレテ一旦裁判
ヲ受ケタルモノハ「レケート」トシヒルノ式ヲ以
テ云フ「レケート」ナリ之レハ一般ノ公益ナレ
ハナリ

法式ニ違ヒタルトキハ上告モ出来「レケート」
トシヒルモ出来ルナリ

ソノトキハ上告ヲ為スヘシ「レケート」トシヒル
ヲ為ス

何トナレハソノ裁判所ノ裁判ニ於テ式ニ違
ヒタルトキ之レヲ「レケート」トシヒルニ願ヒタ
ルトモ多クハ意ヲ得サルヘキナリ仍テ之レ
ヲ上告スルナリ

巴里ニテハ右ノ場合ニ於テハ必ラス上告ス
ルナリ何トナレハ其府下ニ大審院アルユヘ
ナリ田舎ニテハ巴里マテハ遠隔ナルユヘ代
理人ヲ出ス等ソノ他費用モ掛ルユヘ大抵ハ
「レケート」トシヒルヲ用ユルナリ

此所但レ以下款文ヲ改正シテ但レ其法式
ヲ欠キタルニ因リ本人ノ以前ニ廢棄ノ
故障ヲ言ハサルハ其推ヲ失フヘレト為
スヘレ

第三 裁判官ハ私益ニ掛リタルトハ人ノ求
メナクシテ言渡ス_レテ得サルハ原則ナリ
人ノ求メタルトニ付テハ之ヲ是ナリトモ非
ナリトモ裁判スルハ勝手次第ナリトモ
決シテ求メサル_レテ言渡ス_レテ得サルナリ
タトハハ契約ノ解除ヲ求メサルニ之ヲ解除
セヨト言渡シタルトキ
賣買ノ契約ニ付テソノ拂ヒ方ヲ求メタリ然
ルニ裁判官ニテソノ契約ヲ解除スル_レテ言

渡シタルトキ又之ニ反シテ契約ノ解除ヲ求
メタルニ裁判官ニテソノ契約遲延ノ償金ヲ
出シテソノ契約ハ存セヨト云ヒ渡シタルト
キ等

第四 之レハ許ハ出テタルヨリ餘分ノ_レヲ
言_レ渡シタルトキ_レノ_レ

第三ト似タルトモ少シク違ヒアリ
タトハハ千_レフランクノ償ヲ求メタリ然ルニ
二千_レフランクノ償ヲ言_レ渡シタリ

前条ハ求メサル_レテ言_レ渡シタルトキ之ハ求
メタルニ余分ニ言_レ渡タルトキ_レノ_レナリ

第四ノ_レハ稀ニ_レミアル_レテ多クハナキ
ナリ第三ノ_レハ時々アル_レナリ

第三ニ於テ裁判費用ナトハ求サレハ言渡サ
ルナリ然ルニ毎ニ求ムルモノナリ仍テ不
注意ニテ求メサルニ言渡スフアリ
假リノ裁判ニ於テ執行スルフハワノ執行ヲ
求メサレハ言渡スフ得サルナリ然ルニ
々求メサルニ言渡スフアリ
人ノ違ヒタルニ付テ裁判所ノ推ノ違ヒタル
トモ求メサレハ之レヲ言渡スフナリ然ルヲ
求メスエテ言渡シタルトキ
但シ事件ノ違ヒタトヘハ民法裁判ヲ商法裁
判所ヘ出訴シタルトキ等ハ求メスエテ言渡
スナリ之ハ求メサレハ言渡サ、ルトキナ
ナリ

此第四項ハ求メタルモ余分ニ言渡シタル
ナリ
コ、ニ第三ト第四トヲ犯スフアリ
ホアソナードニテ契約ノ解除ヲ求メタル
ノキハワノ解除ト共ニ償ヲ求ムルフ得ル
ナリ
然ルニ之ヲ求メサルトキハ裁判所ヨリ契約
ヲ解除ス償金トヲ言渡シタリ之レハ求メ
ルフト求メサルフトヲ言渡シタルナリ
第五之ハ求メタルフノ欠ケタルフニテ
三ノ裏ナリ
タトヘハ契約ノ解除ト償金ヲ求メタルニ解
除ノミヲ言渡シテ償金ノ事ヲ裁判言渡サ、

ル
ト
キ

四
三
二
一

四
三
二
一

第四十五號

訴訟法會議筆記

八年四月十三日

訴訟法會議筆記

八年四月三十日

第四百八十條ノ内

第六 法律ニ於テ間違ノ生セサルヤウニ注意スレバ時ニヨリテ間違ヲ生スルコトアリ故障ヲ述フル條ニ於テ「レチスパンダ」ト云ヒテ既ニ甲ノ裁判所へ訴へタルモノヲ更ニ他ノ乙ノ裁判所へ訴へタリ之ハ防カサルヘカラス何トナレハ二事相混シタル訴訟ヲニツノ裁判所ニテ裁判ヲ為セハナリ

タトヘハ人権物権相混シタル訴訟ニ於テ甲ノ裁判所ト乙ノ裁判所トニツノ裁判所へ訴

ヘタリソノトキハヒカ又ハ甲ノ裁判所ヘ取
リ纏メサルヘカラスソノトキハ被告人ニテ
之レヲ一ツノ裁判所ヘ移シタキ旨ヲ求ムル
トヲ得ル之ハソノ裁判言渡マテハ之レヲ願
フトヲ得ルナリ

原告人モ一ツノ裁判所ヘ願ヒ下ケヲ為ス
トヲ得ル

然ルニ皆ナ之ヲ求メサリシナリ

檢事ハ此トハ公益ニ係ルトナルユヘ之ヲ求
ムヘキナレトモ求メサリシナリ

裁判官モ訴訟人ノ求メヲ受ケスシテ言渡ス
トヲ得ルニ之ヲ言渡サ、リシナリ

然ルニソノ裁判ハ済ミタリ

依テ控訴ヲ為シタリトモ同シク齟齬セシナ
リ

ソノトキハレケトトシヒルニ求メサルヘカ
ラス

然ルニソノ執行ハ為スト能ハス何トナレハ

一ツノ裁判所ニテハ物件取戻シヲ言渡サレ
一ツノ裁判所ニテハ道理ノ立たサル旨ヲ言

渡サレタルユヘナリ

コ、ニ一ツノ難事アリ我レモ之ヲ解クトヲ
得ス

二ツノ裁判ノ齟齬セシトキ既ニレケトトシ
ヒルノニケ月ノ期限ヲ過シタリ

如シ我レ立法官ナラハニケ月ノ期限ヲ立テ

サルナリ何トナレハ之ハ公益ニ係ルナリ
然ラハ何時ニテモ之レヲ求ムルヲ得ヘキ
ヤウニ立ツヘキナリ

然ルニソノニケ月ヲ過キタルトキハ如何ス
ヘキト解クハ法律中ニハ書イテナキナリ
併シ之ヲ解カサルヲ得サルナリ

大審院へ訴フルモニケ月限りナリ
訴フルヲ得ス

此齟齬セシ裁判ハ確定ニテ動かスヘカラサ
ルモトス

依テ案スルニニツトモニ立テサルヘカラス
ソノ半バツ、ヲ存スヘキナリ

原告人ハ不動産ヲ取戻スノ権アリ被告人ハ

道理ナリト言渡サレタルユヘ即チ何レモ所
有ノ権ヲ有スルナリ

タトヘハ人権ヲ以テ訴ヲ為ストキ一万圓ノ
訴訟ニ付キ一方ノ裁判所ニテハ原告人ハ勝

チ他ノ一方ノ裁判所ニテハ被告人ハ勝チタ
リ

ソノトキハ五千圓ツ、ヲ取ルヘシトス

甲ノ裁判所ニテ全額ヲ負ケ乙ノ裁判所ニテ
ハ全額ヲ勝チタリ之レヲ平均スルトキハ一

半ツ、ヲ取ルヘキナリ

ソノ執行ニ於テハ之レヲ変スルヲ得スト

虽モソノ執行ニ付テ紛紜ヲ生シタルトキハ

終審ヲ為シタル裁判所ニテソノ執行ノ方法

ヲ言渡サル、ナリ
 此ノ如キ甲乙ノ違ヒタル裁判所ナルトキハ
 大審院へ訴フルナリ
 又同一ノ裁判所ナルトキハ「レケート」トシヒル
 へ訴フルナリ
 第五百四條ヲ参照スヘシ
 タトヘハ東京ノ裁判所ト長崎ノ裁判所へ同
 シ「ト」ヲ訴ヘタルニ付キ異ナル裁判言渡トナ
 リタルトキハ大審院へ訴フル「ト」ヲ得ルナリ
 併シニヶ月ヲ過キタルトキハ本條ト同シ
 又同一ノ裁判所ニテ言渡ヲ受ケタルトキハ
 「レケート」トシヒルニ訴フルナリ但シニヶ月ヲ
 過クレハ訴フル「ト」ヲ得ス

何レニシテモ急タリタルトキハ前ニ云フ如
 キ面倒トナルナリ
 此ニヶ月ハ最終ノ言渡ノ送達ヲ受ケタルヨ
 リ起算スルナリ仍テ實際ニハ絶テナシト虽
 モ無キト云フヘカラス平生思量スヘキ「ト」ナ
 リ
 双方互ヒニ勝負アリ之レヲ平均スルヨリ外
 ハナシ
 不動産ナレハ猶更間連ナシ一方ハ甲一方ハ
 乙ノ所有ナルヘシ仍テ追テ之ヲ賣却シテソ
 ノ金ヲ令ツヘキナリ
 金ナリトモ同シ之ヲ中令スヘキナリ
 如シ日本ニ於テ此ノ如キ場合ノ所令アルニ

於テハ仏國ニナキトテ現ニ考ヘタルナルヘ
シ
第七 同一ノ裁判言渡ニ於テ裁判言渡書ノ
道理ノニ夕通りニシテ言渡サレタルトキノ
トナリ
タトヘハソノ裁判言渡ノ道理ヲ立テ、之ハ
天災ニテ滅尽シタルニ付キ此契約ハ執行ス
ヘカラスト云ヒソノ末文ニ至リテ此償金額
何許ヲ拂フヘシト書キタルトキノトナリ
ソノトキハニヶ月間ニ「レケートトシヒル」ニ訴
フヘシ
如シソノニヶ月ヲ過キタルトキハ即チ面倒
ヲ生ス

ソノニヶ月ヲ過クレハ償金ヲ拂ハサルヘカ
ラス之ヲ拂ヘハ前文ノ契約ヲ執行スヘカラ
スノ道理ハ消滅スヘキナリ
何レニテモニヶ月ノ期限ヲ立ツルハヨロシ
カラス
案スルニ即チソノ償金ヲ平均スヘキナリ
元來之レハ裁判官ノ間違ナリ
然ルヲ其損害ヲ裁判官ニ責ムルトキハ裁判
官ハ其勝ちタルモノニ對シ汝ノ便利ナル裁
判ヲ為シタリ
依テ其償金ヲ我レニ出スヘシ
之ヲ以テ負タルモノヘ償フヘシト云フヘキ
ナリ

之レモ實際ニハナキナリ

第五 第六 第七ハ甚タ稀レナルナリ

第八 之モ同シク稀ナルナリ既ニ講シタ

ル第八十三條以下ノ檢事ニテ報知ヲ受クヘ

キナリ受ケスシテ報知セサルトキノナリ

檢事ニテ之レヲ聞カサルヲ得スト思フハ

之ヲ求メテ聞キ又求メストモ裁判官ニテ報

知スヘキノナレハ報知スルナリ

此場合ニ於テハ上告モレケトシヒルモ妨

ケナシ巴里ニテハ必ラス上告スルナリ

之ハ訴訟ノ手ツ、キヲ欠キタルモノナリ

ホルト「マルセル」等ニテハ巴里マテハ遠キ

ユヘ大抵取消ヲ求ムルナリ

第九 此實ハ不幸ナルカナ頻リニ起ルナ

リ併シ事柄ニ係ルユヘ上告ヲ許サ、ルナ

此項ハ別ニ講スヘキノナシ

第四百八十八條ニ此事ニ付テハ何ノ時ヨリ

ニケ月ヲ起算スヘキヤヲ説イテアルナリ

第十 之レハ實ニハアラス一旦金ヲ拂ヒタ

リトモソノ証書ヲ返ヘサス又ハソノ受取書

ヲ隠シタルトキノナリ

自己ノ無念ニテソノ証書ヲ紛失セシトキハ

止ムナリ得ス

此項ノ主意ハソノ証書ヲ原告人ニ押ヘラレ

タルトキノナリ

一旦裁判言渡ノ上ニソノ証拠アリトテ持出
ス毎ニソノ裁判ヲ為シ直ストキハ際限アル
ヘカラス但シソノ相手方ニテソノ証拠ヲ取
押ヘタルトキハ「レケートシヒル」ニ訴フルナ
リ
タトヘハ甲ニテ乙へ金ヲ借シ之ヲ返シタリ
仍テソノ受取証書ヲ送りタリ然ルニソノ受
取ヲ書籍ニ校ミタリソノ書籍ヲ甲ニテ借覧
シタリ然ルニ甲ニテハ乙ノ死後ニ再ヒ之レ
ヲ訴ヘタリ
ソノ後ソノ書籍ヲ返シタリ然ルニソノ書籍
ノ中ヨリ受取書ハ出テタリ仍テソノ子ニテ
之レヲ以テ「レケートシヒル」ニ訴ヘタリ

第八ノ「」ニ付テ少シク言ヒ殘シタリ
檢事へ通スヘキ「」ヲ通スルハ法律ニ於テ必
ラス通スヘキ「」ナリ然ルニ保護ヲ受クヘキ
幼者等ニテ勝チタルトキハ通知セストモ「
ケートシヒル」ニ為ラスソノ負ケタルトキノ
「」ナリ
タトヘハ政府トノ訴訟ニ付テハ通知スヘキ
ナリ然ルニ政府ニテ勝チタルトキハ通知セ
ストモソノ名代人ハ「レケートシヒル」ニ訴フ
ルニ及ハス
第四百八十一條 官府邑公舎幼者ハ之ニ代テ
訴ヲ為ス者ノアラサリシ時又ハ其代人アリシ
ト虽氏法ニ適シテ其訴ヲ為サリシ時ハ其言渡

シヲ受ケタル裁判ノ取消ヲ訴フルトヲ得ヘシ
此條モ則チ非常ノ意ヲ以テ補フトヲ云フモ
ノナリ

此官府邑公舎幼者ハ皆十名代人アリテ訴訟
ヲナスナリ

官府ニハ夫レミミノ名代人アリテ邑ハ邑長
ナリ公舎ニモ名代人アリ幼者ハソノ後見人
ニテ名代人ニナルナリ

ソノ裁判ヲ言渡サレタルトキ上告控訴ノ道
ナキトキハ「レケートシヒル」ヲ為ストヲ得ル
之ハソノ名代人ニテソノ務ヲ盡サスト見做
スユヘナリ

以上ノ十一ハ「レケートシヒル」ヲ為ストヲ得

ルナリ

十一ハ惡敷ナリ一ツヲ足シテ十二トナスヘ
キナリ元ヨリ法律ニ於テ之レ等ノ「レヲ嫌フ
「ハナキ苦ナレ」日本ニテ立テ、十ト為ス
トキハ第三ト第四ト「レ一ツニ為スヘキナリ

第四百八十二條 裁判言渡書中ノ一箇條ノミ
ニ付キ取消ヲ訴フルトヲ得可キハ其箇條ノミ
ヲ取消ト為ストヲ得可シ但シ他ノ箇條其一箇
條ニ屬シタル事ナル時ハ格別ナリトス

裁判言渡ノトキニ求メサル「レヲ言渡サレタ
ルトキハソノ求メサル「レノミヲ取消スナリ」
自己ノ求メサル「レヲ言渡サレタルトキ之ヲ
取消スニソノ主タル訴訟ヲ取消シタルトキ

ハソノ訴訟ニ附屬シタルトテモ取消スヘキナリ
タトヘハ主タル訴訟ハ契約ノ解除ナルトキ之レヲ返スニハ樹ヲ植工テ返スヘキ等ノトナルトキハ先ツ主タル契約ノ解除ヲ取消シソノ後ニ樹ヲ植ユルトテモ取消スヘキナリ
第四百八十三條ヨリ第四百九十條マテハ「ケートシヒル」ノ期限ノトテ云ヒ第四百九十一條ヨリ第四百九十六條マテハ「レケートシヒル」ノ或ノトテ云ヒ第四百九十七條ヨリ第四百九十九條マテハ「レケートシヒル」ノ裁判所ノ管轄ノトテ云フモノナリ
第四百八十三條 [千八百六十二年五月三日如

左改ム敬慎ノ願書ハ丁年者ニ付テハ其本人又ハ其住所ニ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ二ヶ月内ニ相手方ニ對シテ裁判所ニ出席ヲ要ムル呼出狀ト共ニ之ヲ其相手方ニ送達ス可シ
敬慎ノ願ヲ為ス期限ハ旧法ハ三ヶ月ナリ
千八百六十二年五月ニ於テ各種ノ期限ヲ縮メタリ
此條ニハ期限ノトテ云ヒ且ツ少シク式ヲ云ヒタリ
此後ニソノ式ハ十分ニ説キタルユヘ此處口ニハ説カス
併シ之ヲ送達スルハ誰レナリヤトナレハ使吏之ヲ為スナリ

ソノ敬慎ノ願書ヲ寫シ此譯ヲ以テ出席スヘ
シト書クナリ

此所ニハ二月ノ一ノミヲ記シタレトソノ
呼出狀ヲ送ルハ即チ九月八日ナリ

前ニ説キタル所ニ通常ノ呼出狀ト同シク

八月トアリ茅子三十三條ニ一般ノ呼出狀ハ

八日ナリト記シタルユヘ此所ニ記セスト

モ可ナリ

此條ニハ丁年ノ一ヲ書イテアリ幼年ノ一ハ

次條ニアリ

裁判言渡ノ日ヨリ起算スルニアラス裁判言

渡ノ送達ヲ得テ十一ヶ條ノ一アリヤナキヤ

ヲ見ルナリアレハコレケートシヒルヲ為スナ

リ

第四百八十四條 一千八百六十二年五月三日如

左改ム幼者ニ付テハ其丁年ニ至リシ後其本人

又ハ其住所ニ裁判言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨ

リ其二ヶ月ノ期限ヲ數フ可シ

之ハ幼年ノ一ヲ云フ

幼年ニ付テハ少シク便利ヨロシ

ソノ丁年ニ至ルマテハ一切算セサルナリ

控訴ノトキニハ何人ヲ論セス幼年ナリトモ

ニヶ月ヲ過クレハ為ス一ヲ得サルナリ此レ

ケートシヒルハ幼年ノモ、丁年トナルマ

テヲ算セサルナリ

何トナレハソノ後見人ハ善ク拒カサリシヤ

又ハ法ニ適セサリシヤノ遺憾アリ仍テ此ノ如クニ定メタリ

レケートトシヒルハ再ヒ為スヲ得ス殊ニ後見人ハ十分ニ拒カサルノ遺憾アルナリ

問 控訴ノトキハ何ノ為メニ幼者ノ區別ヲ為サハルヤ

答 通常ノトキニ付テハ丁年ニ至ルマテ待ツニ及ハスレケートトシヒルハ非常ノトナリ
タトハ甲ニテ死シタリソノ子ハ二年ナリソノ子ノ丁年ニ至ルヲ待ツテ訴訟ヲ為スト
キハ甚タ待チ遠キトナリ
非常ノ道ハ多クアルモニアラス仍テ此ノ如ク為シタリ

証書ノ贋造又ハ詐偽ヲ自認シタル日又ハ新タニ証書ヲ見出シタル日ヨリニヶ月ノ期限ヲ教フ可シ但シ証書ヲ見出シタル場合ニ於テハ之ヲ見出シタル日ヲ證明ス可キ証書アルトヲ必要トス

之ハ肝要ナルトナリ
之モニヶ月ノ期限ヲ云フモノナレヒソノ起算ノ方法ハ違フナリ

法律ニ於テ三ツノ場合アリト見做スナリ

第一ニ詐偽

第二ニ贋造

第三ニ隠匿シタル証書ヲ見出シタルトキ

此三ツノ場合ニ於テハ見出シタル日ヨリ起算ス

未夕見出サ、ル間ハ詐偽贋造隠匿ナリヤハ
知ルヘカラス

ソノ詐偽等ヲ見出シタルトキハ直チニ裁判
所へ書面ヲ以テ届ケ出テサルヘカラス否ラ
サレハ之ヲ見出シタリトモ黙シテ居ルヘキ
ナリ

第四百八十九條 二箇ノ裁判言渡ノ互ニ齟齬
シタル時ハ後ノ言渡書ノ送達ヲ得タル日ヨリ
ニケ月ノ期限ヲ数フ可シ

之モ同シク期限ヲ言フモノナリ
前條ノ裁判ノ言渡ヲ送達シタルノミニテハ
齟齬ハ生セサルナリ後ノ言渡書ヲ送達スル
トキハソノ齟齬セシト分明ナリ

幼年ノモノニテ訴訟ニ負ケタルトキ必ラス
云ハン我カ後見人ハ拒キ方ヨロシカラス我
カ丁年ニ至リシ後ニ「レケートトシヒル」ヲ為ス
ヘシト云フ弊アルヘシ仍テソノ裁判ハ中止
セスシテ執行スルナリタトヒソノ丁年ニ至
リシ後ニ取直ストモ先ツ執行スルナリ之レ
控訴ト同シカラサルナリ

上告モ「レケートトシヒル」モ同シク執行ヲ中止
セサルナリ仍テソノ弊害ナシ
第四百八十五條ト第四百八十六條ハ多言ヲ
費ヤサス日本ニテハ入用ナシ

第四百八十七條 裁判言渡ヲ受ケタル者其取
消ヲ願フ可キトニ付キ前數條ニ定メル期限内

ニ死去シタル時ハ其相続人其取消ヲ願フ可キ
期限ヲ第四百四十七條ニ記シタル期限ヨリ数
フ可シ但シ其方法モ又同上ニ記シタル所ニ循
フ可シ

一方ノ負ケタルモノ裁判言渡ノ後一ヶ月ヲ
過キテ死シタリソノトキハソノ言渡書ヲ相
続人ニ再ヒ送達セサレハ期限ヲ起算セサル
ナリ

既ニ控訴裁判所ノトヲ説キタルトキニ尽ク
セリ

第四百八十八條 證書ノ贋造ナルト又ハ新タ
ニ証書ヲ見出シタルト又ハ相手方ノ詐偽ニ因
リ一方ノ者敬慎ノ願書ヲ出ス時ハ相手方ニテ

之ニテレケトシヒルノ期限ノトハ濟ミタ
リ次會ニハ式ノトヲ説カントス



